

地理総合

総合学科

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	2年次	選択群		
使用教科書	地理総合 世界に学び地域へつなぐ (二宮書店)			副教材等	地理総合 ワークブック(二宮書店) 詳解現代地図 最新版(二宮書店)		履修	必修・選択
授業の概要				学習の到達目標			履修の条件・進路	
現代社会の特色を、地理的な技能を活用して解決したり考えたりして、大きくとらえていきます。 地図の見方や自然環境、世界各地の人々や生活文化について学習します。				<ul style="list-style-type: none"> 現代社会の地理的な諸課題を、地図や地理情報システムを活用しながら地域性を踏まえて考察し、現代世界の地理的認識を養う。 地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。 			2年次生全員が履修します。	
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容				
	4月	第1部 地図でとらえる現代世界	第1章 地図と地理情報システム 第2章 結び付きを深める現代世界	1.地球上の位置と時差 2.地図の役割と種類 1.現代世界の国家と領域 2.グローバル化する世界				
	5月	第2部 国際理解と国際協力	第1章 生活文化の多様性と国際理解	序.生活文化の多様性				
	6月			1.世界の地形と人々の生活				
	7月			2.世界の気候と人々の生活 追究事例自然1.オセアニア 追究事例自然2.東南アジア				
	9月			3.世界の言語・宗教と人々の生活 追究事例宗教1.中央アジア・西アジア・北アフリカ 追究事例宗教2.インド				
	10月	第2章 地球的課題と国際協力		4.歴史的背景と人々の生活 追究事例歴史1.ラテンアメリカ 追究事例歴史2.サハラ以南アフリカ 追究事例歴史3.ロシア				
	11月			5.世界の産業と人々の生活 追究事例産業1.アメリカ合衆国 追究事例産業2.東アジア 追究事例産業3.ヨーロッパ				
	12月			1.複雑に絡み合う地球的課題 2.地球環境問題 3.資源・エネルギー問題				
	1月			4.人口問題 5.食料問題 6.都市・居住問題				
	2月	第3部 持続可能な地域づくりと私たち	第1章 自然環境と防災	1.日本の自然環境 2.地震・津波と防災 3.火山災害と防災 4.気象災害と防災 5.自然災害への備え				
	3月			第2章 生活圏の調査と地域の展望 1.地理的な課題と地域調査 2.現地調査の準備 3.現地調査の実施 4.調査の分析と発表				
学習方法	<p>【予習】 教科書の該当ページをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。</p> <p>【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない箇所は、早めに質問しましょう。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については確実な知識を身に付けましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能			思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度	
	<ul style="list-style-type: none"> 地図や地理情報システムなどを用いて、その情報を収集し、読み取り、まとめる基礎的・基本的な技能を身に付けている。 地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解している。 			<ul style="list-style-type: none"> 世界の人々の生活文化について、その生活文化がみられる場所の特徴や自然及び社会的条件との関わりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、持続可能な地域づくりなどに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 			<ul style="list-style-type: none"> 生活文化の多様性と国際理解について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 自然環境と防災について、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 	
	評価方法			第1・2学期		第3学期		年度末
<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>			A：7割 B：3割 Bは、授業態度等課題の取組状況、長期休業中の課題等		A：7割 B：3割 Bは授業態度課題の取組状況、冬季休業中の課題等		1・2・3学期の平均	
備考								

歴史総合

総合学科

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	1年次	選択群	
使用教科書	歴史総合 近代から現代へ			副教材等	歴史総合近代から現代へノート	履修	必修・選択
授業の概要		学習の到達目標			履修の条件・進路		
<p>現代的な諸課題につながる近現代の日本と世界の歴史を学びながら、歴史的なものの見方、考え方を身につける科目です。近現代を中心に、日本の歴史と世界の歴史を、そのつながりや関わりを意識しながら学習します。</p>		<p>社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。</p>			<p>1年次生全員が履修します。</p>		
学習の年間計画	月	単元名	項目	学習内容			
	4月	第Ⅰ部 近代化と私たち	第1章 結びつく世界	1. アジア諸地域の繁栄と日本 2. ヨーロッパにおける主権国家体制の形成とヨーロッパ人の海外進出			
	5月		第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	1. ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2. アメリカ独立革命とフランス革命 3. 19世紀前半のヨーロッパ 4. 19世紀後半のヨーロッパ 5. 19世紀のアメリカ大陸 6. 西アジアの変容と南アジア・東南アジアの植民地化 7. 中国の開港と日本の開国			
	6月		第3章 明治維新と日本の立憲体制	1. 明治維新と諸改革 2. 明治初期の対外関係 3. 自由民権運動と立憲体制			
	7月		第4章 帝国主義の展開とアジア	1. 条約改正と日清戦争 2. 日本の産業革命と教育の普及 3. 帝国主義と列強の展開 4. 世界分割と列強の対立 5. 日露戦争とその後			
	9月	第Ⅱ部 国際秩序の変化や大衆化と私たち	第5章 第一次世界大戦と大衆社会	1. 第一次世界大戦とロシア革命 2. 国際平和と安全保障 3. アジア・アフリカ地域の民族運動 4. 大衆消費社会と市民生活の変容 5. 社会・労働運動の進展と大衆の政治参加			
	10月		第6章 経済危機と第二次世界大戦	1. 世界恐慌の発生と各国の対応 2. ファシズムの台頭 3. 日本の恐慌と満州事変 4. 日中戦争と国内外の動き 5. 第二次世界大戦と太平洋戦争			
	11月		第7章 戦後の国際秩序と日本の改革	1. 新たな国際秩序と冷戦の始まり 2. アジア諸地域の独立 3. 占領下の日本と民主化 4. 占領政策の転換と日本の独立			
	12月	第Ⅲ部 グローバル化と私たち	第8章 冷戦と世界経済	1. 集団防衛体制と核開発 2. ミソ両大国と平和共存 3. 西ヨーロッパの経済復興 4. 第三世界の連携と試練 5. 55年体制の成立 6. 日本の高度経済成長			
	1月		第9章 グローバル化する世界	7. 核戦争の恐怖から軍縮へ 8. 冷戦構造のゆらぎ 9. 世界経済の転換 10. アジア諸地域の経済進展と市場開放			
	2月			1. 冷戦の終結と国際情勢 2. ソ連の崩壊と経済のグローバル化 3. 開発途上国の民主化と独裁政権の動揺 4. 地域紛争の激化 5. 国際社会のなかの日本			
	3月	第10章 現代の課題	1. 現代世界の諸課題 2. 現代日本の諸課題				
	学習方法	【予習】 教科書の該当ページをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない箇所は、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については確実な知識を身に付けましょう。					
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解する。</p>		<p>近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察する。</p>		<p>近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>		
評価方法	第1・2学期		第3学期		年度末		
	<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>A：7割 B：3割 Bは、授業態度等課題の取組状況、長期休業中の課題等</p>		<p>A：7割 B：3割 Bは授業態度課題の取組状況、冬季休業中の課題等</p>		<p>1・2・3学期の平均</p>
備考							

日本史探究

総合学科

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	I群		
使用教科書	詳説日本史(山川出版社)			副教材等	ゼミナール日本史(浜島書店)		履修	必履修・ 選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路			
<p>「歴史総合」で獲得した概念やこの科目の前近代の学習とのつながり、前近代の学習で成長させた歴史を考察する力を活用し、歴史に関わる諸事象相互の関係性や、地域と日本、世界との関係性などを構造的に整理して理解し、さらに現代の日本の諸課題について多面的・多角的に考察、構想する。</p>			<p>・社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家および社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを旨とする。</p>			<p>・四年制大学文系の進学希望者のみ履修してください。</p>			
学年間の計画	月	単元名	項目	学習内容					
	4月	第Ⅰ部 原始・古代	第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり	2 農耕社会の成立				
	5月		第2章 古墳とヤマト政権	1 古墳文化の展開	2 飛鳥の朝廷				
	6月		第3章 律令国家の形成	1 律令国家への道	2 平城京の時代				
	7月	3 律令国家の文化		4 律令国家の変容					
	9月	第Ⅱ部 中世	第4章 貴族政治の展開	1 摂関政治	2 国風文化	3 地方政治の展開と武士			
	10月		第5章 院政と武士の躍進	1 院政の始まり	2 院政と平氏政権				
	11月		第6章 武家政権の成立	1 鎌倉幕府の成立	2 武士の社会		3 モンゴル襲来と幕府の衰退		
	12月			3 鎌倉文化	4 鎌倉文化				
	1月	第7章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立	2 幕府の衰退と庶民の台頭					
	2月		3 室町文化						
	3月		4 戦国大名の登場						
	学習方法	<p>【予習】 教科書の該当ページをよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。 【授業】 説明をよく聞き、理解に努めましょう。理解できない箇所は、早めに質問しましょう。 【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については『ゼミナール日本史』を活用して、確実な知識を身に付けましょう。</p>							
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	<p>・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的にとらえて理解しているとともに、諸資料から我が国の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。</p>		<p>・我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史にみられる課題を把握し解決を視野に入れて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。</p>			<p>・我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>			
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末		
<p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。 A：主に考査による 観点別評価 B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		<p>A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等</p>		<p>A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、冬季休業中の課題等</p>		1・2・3学期の平均			
備考									

日本史探究②

総合学科

教科	地理歴史	単位数	4単位	対象	3年次	選択群	T群
使用教科書	高等学校日本史探究 (第一学習社)			副教材等			履修 必履修・ 選択
授業の概要		学習の到達目標			履修の条件・進路		
日本の古代から現代にいたる歴史の中で、主に政治史を中心に学習します。主要な出来事や人物に関するビデオ教材を取り入れながら、わかりやすい授業を実施します。		<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史全体の流れを理解し、基本的な内容や知識を身に付ける。 日本の文化と伝統の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培う。 			<ul style="list-style-type: none"> T群(3年次)の自由選択科目です。 公務員や就職試験を想定した日本の歴史の政治や文化について学習します。 できれば、歴史に関心の強い人が選択してください。 		
学年 の 間 計 画	月	単元名	項 目	学 習 内 容			
	4月	第1章 原始・古代の日本と東アジア	第1節 日本文化の黎明 第2節 ヤマト政権と律令国家の形成 第3節 律令国家の変容	①日本列島の形成 ②縄文文化 ③弥生文化 ①小国の分立 ②巨大古墳 ③ヤマト政権 ④大化の改新 ⑤天皇制成立 ⑥律令制度 ⑦平城京 ⑧社会の変化 ①平安京 ②平安仏教 ③貴族政治 ④荘園と武士の登場			
	5月	第2章 中世の日本と世界	第1節 中世への転換 第2節 鎌倉幕府の展開 第3節 室町幕府の展開	①院政の始まり ②平氏政権 ③鎌倉幕府の成立 ①執権政治 ②土地支配 ③産業の発達 ④元寇 ⑤新仏教 ①幕府成立と動乱 ②守護大名の台頭 ③日明貿易 ④産業の発達 ⑤惣村の形成 ⑥室町文化			
	6月	第3章 近世の日本と世界	第1節 近世への転換 第2節 幕藩体制の確立 第3節 幕藩体制の展開	①戦国大名の出現 ②南蛮貿易 ③天下統一 ④近世への扉 ①江戸幕府の成立 ②蝦夷地と琉球 ③鎖国 ④宗教統制			
	7月		第4節 社会の変化と幕府の対応	①文治政治への転換 ②近世の身分 ③近世の産業 ④巨大都市の出現 ⑤貨幣経済の進展 ⑥元禄文化 ①幕政の改革 ②一揆と打ちこわし ③せまってくる外国船 ④庶民文化 ⑤国学と洋学			
	9月	第4章 近現代の地域・日本と世界	第1節 近代への転換 第2節 近代国家の形成	①幕藩体制の動揺 ②黒船来航 ③幕末の政局 ④幕府崩壊 ①明治維新 ②富国強兵 ③欧米思想 ④日本の国境 ⑤自由民権運動 ⑥農村の変化 ⑦憲法制定と国会 ⑧法典整備			
	10月		第3節 国際関係の推移と近代産業の発展 第4節 第一次世界大戦と日本	①条約改正 ②日清戦争 ③日露戦争 ④朝鮮と満州 ⑤政党と政府 ⑥産業革命 ⑦社会運動 ⑧明治の教育と文化			
	11月		第5節 軍部の台頭と戦争の長期化 第6節 日本の再建	①大正政変 ②最初の世界大戦 ③国際協調 ④普通選挙 ⑤社会運動の拡大 ⑥大衆文化 ⑦大正期の学問と芸術 ①恐慌の嵐 ②恐慌外交へ ③軍部の暴走 ④日中戦争 ⑤戦時協力体制 ⑥太平洋戦争 ⑦戦争の拡大 ⑧戦争終結			
	12月		第7節 経済の発展 第8節 経済大国とグローバル化	①日本占領 ②憲法制定 ③戦後の混乱 ④冷戦と講和 ⑤経済復興 ①高度経済成長 ②中流意識 ③ベトナム戦争と沖縄返還 ①石油危機 ②消費生活の多様化 ③冷戦終結と55年体制の崩壊 ④混迷する政治と経済 ⑤変容する社会のなかで			
	1月	第5章 現代の日本の課題の探究		①消費生活と地域社会の変化 ②世界とのかかわりと地域社会の変化 ③行事や祭りと地域社会の変化			
	2月						
	3月						
学習方法	<p>【予習】 教科書をよく読んで、わからない箇所をチェックしましょう。</p> <p>【授業】 興味・関心をもって、主体的に学習しましょう。使用するプリントをわかりやすくまとめましょう。</p> <p>【復習】 教科書と復習プリントを使用して、基本事項を中心に知識を身に付けて下さい。</p>						
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現		主体的に学習に取り組む態度		
	<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開について、世界の動向と関連させて総合的に理解し、政治、経済、社会、文化の各分野の基本的事項の知識を身に付ける。 諸資料から日本の歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史や文化を世界の動向や現代のつながりに着目して、多面的・多角的に考察し、国際社会の変化に踏まえ公正に判断する。 また、考察し判断した過程や結果を適切に表現し、議論する力を身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 日本の歴史の展開に対する関心と課題意識をもって、授業に積極的に参加する。 予習・復習をきちんと行う。 		
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末
	<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A：主に考查による観点別評価</p> <p>B：主に授業等の活動による観点別評価</p>		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、長期休業中の課題等		A：7割 B：3割 Bは、授業態度(発表)、小テスト、課題の取組状況、冬季休業中の課題等		1・2・3学期の平均
備考							

世界史探究

総合学科

教科	地理歴史	単位数	2単位	対象	2年次	選択群	H群		
使用教科書	高校世界史 (山川出版社)			副教材等	明解世界史図説 (帝国書院)	エスカリエ	履修	必履修・選択	
授業の概要			学習の到達目標			履修の条件・進路			
<ul style="list-style-type: none"> 世界の古代から情報時代までの歴史を概観し、様々な体験的な学習を行う。 世界各地の様々な文化について、現在残っている歴史的な建造物や資料を分析する。 世界史の学習を通じて、世界中の様々な地域の人々の文化や風習に対する理解を深める。 			<ul style="list-style-type: none"> 世界の歴史の流れを理解し、基本的な内容や知識を身に付ける。 世界の文化や風習の特色についての認識を深めながら、歴史的思考力を培う。 世界の歴史と文化について、主に体験的な学習を通して学ぶことにより、グローバル化する社会に対する関心と理解を深める。 			<ul style="list-style-type: none"> H群(2年次)の自由選択科目です。 進路に関する条件はありません。 歴史や文化に興味・関心がある人が選択してください。 			
学年間の計画	月	単元名	項目	学 習 内 容					
	4月	1 古典時代	1 文明の成立と古代文明の特質	・世界各地の古代文明(エジプト・インド・中国・アメリカ)					
	5月		2 中央ユーラシアと東アジア世界	・古代中国の帝国(秦・漢)と遊牧民族					
			3 南アジア世界と東南アジア世界の展開	・仏教やヒンドゥー教の成立と古代東南アジア文化					
			6月	4 西アジアと地中海周辺の国家形成	・イランの帝国と古代ヨーロッパ(ギリシャ・ローマ)				
			7月	5 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	・キリスト教の成立 ・イスラーム帝国の成立と発展 ・フランク王国の成立と分裂				
	9月	2 中世	1 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	・中世イスラーム世界の変化					
			2 ヨーロッパ世界の変容と展開	・神聖ローマ帝国とビザンツ帝国 ・中世ヨーロッパ文化 ・宋の興亡とモンゴル帝国					
			3 東アジア世界の展開とモンゴル帝国						
	10月	3 ルネサンス時代	1 大交易・大交流の時代	・大航海時代					
	11月		2 アジアの諸帝国の繁栄	・オスマン帝国とムガル帝国 ・近世の中華帝国(明・清)と李氏朝鮮					
			3 近世ヨーロッパ世界の動向	・ルネサンスと宗教改革 ・絶対王政とヨーロッパの宮廷文化 ・産業革命とアメリカ合衆国の独立 ・フランス革命とその影響					
	12月	4 産業時代	1 産業革命と環大西洋革命	・イギリスとアメリカの発展 ・19世紀のヨーロッパ文化 ・アジアの植民地化					
	1月		2 イギリスの優位と欧米国民国家の形成						
3 アジア諸地域の動揺									
2月	5 近代	1 帝国主義とアジアの民族運動	・アフリカの植民地化とヨーロッパ諸国の対立 ・清の滅亡と中華民国の成立						
		2 第一次世界大戦と社会の変容	・第一次世界大戦とロシア革命 ・1920年代の欧米諸国の様子と文化						
		6 原子力時代	1 第二次世界大戦と新しい国際秩序の形成	・世界恐慌と第二次世界大戦 ・国際連合の発足					
2 冷戦と第三世界の台頭	・冷戦の始まりと核兵器開発競争 ・キューバ危機								
3月	7 情報時代	1 冷戦の終結と今日の世界	・コンピューターの登場と産業の変化 ・冷戦の終わり						
学習方法	<p>【予習】 課題が出ている場合は、まとめたものを自分の言葉で理解する。</p> <p>【授業】 よく聞いて、ノートにまとめ、内容を理解する。ビデオなどはしっかりとメモをとる。</p> <p>【復習】 その日に学習した内容について整理し、特に重要語句については確実な知識を身に付ける。</p>								
評価の観点・評価規準・評価方法	知識・技能		思考・判断・表現			主体的に学習に取り組む態度			
	<ul style="list-style-type: none"> 世界史の学習を通じて、世界の諸地域の文化が現在の国際社会と関係があることを理解し、それを知識として身に付ける。 		<ul style="list-style-type: none"> 世界史の学習を通じて世界の様々な文化、歴史を学び、その思想的・宗教的・環境的な背景について考えることができる。 			<ul style="list-style-type: none"> 世界の諸地域の文化について、興味や知る喜びをもって授業に臨める。 提出期限を守る。 積極的に挙手・発表する。 			
	評価方法		第1・2学期		第3学期		年度末		
<p>評価方法</p> <p>※ 上記の観点を基に、各学期とも評価する。</p> <p>A: 主に考查による 観点別評価</p> <p>B: 主に授業等の活動による 観点別評価</p>		A: 7割 B: 3割 Bは、授業態度(発表)、提出物、夏季休業中の課題等		A: 7割 B: 3割 Bは、授業態度(発表)、提出物、冬季休業中の課題等		1・2・3学期の平均			
備考									